

2024 ひょうご脱炭素経営スクール修了生 15 事業者 (2025.6 時点情報)

企業名	石光商事株式会社
脱炭素経営方針	新たなビジネスモデルの創造による脱炭素社会への挑戦
目標	2030 年 Scope1.2.実質ゼロ、2050 年カーボンニュートラル
主なアクション	① Scope1. グリーン焙煎による代替エネルギー導入 ② Scope2. 再エネ導入 ③ Scope3. 原料の脱炭素研究投資、ゴミの資源化、配送効率化
担当者からのメッセージ	石光グループは農作物を中心とした自然資本を扱う企業で、2050 年カーボンニュートラルを目指しサプライチェーン全体の協業に資源配分を行います。このカーボンニュートラルを実現させるために経済性が必要と考え、新たな価値創造をすることで経済性を高め目的への推進を図っていきます。 ただし自然資本の脱炭素は難易度が非常に高く、現地での調査研究に時間を有することから、各主要産地の研究機関などと組んで脱炭素に向けた基礎調査を開始しました。 我々はサプライチェーン全体で農作物のサステナブルな社会を築き、ミッションである「世界の食の幸せに貢献する」を達成することを目指します。
担当者名	井上英司、兼田奈央
リンク URL	https://www.ishimitsu.co.jp/

企業名	旭光電機株式会社
脱炭素経営方針	持続可能な社会の実現に向けて、CO2 排出量の見える化で、効率的かつ革新的な方法で、事業活動の脱炭素化を推進します。
目標	50%削減 (2018 年度比)
主なアクション	①全設備の電力の可視化 ②設備の更新 ③ハイブリッド車の導入
担当者からのメッセージ	CO2 排出量の削減の第一歩は電力の見える化です。 自社商品である IoT 電力センサデバイスの wattXplore(ワットエクスプローラ)を既存の全設備に設置することで、削減ポイントが明確になり課題解決に繋がります。皆様も一度、wattXplore(ワットエクスプローラ)を既存設備に設置してみませんか。
担当者名	山本 圭司(総務部)、中西 隆徳(社長室)
リンク URL	https://www.kyokko.co.jp/

企業名	グッドホールディングス株式会社
脱炭素経営方針	協働や連携により、より広い視野でカーボンニュートラルの構築を目指す
目標	2030 年度 排出量 38%削減（2013 年度基準） 2050 年度 排出量ネットゼロ（Scope1,2）
主なアクション	①省エネ対策 ②車両対策 ③脱炭素推進
担当者からのメッセージ	1953 年の創業以来、環境ビジネスを通じて社会課題の解決に取り組むグループ。 2022 年度からは、バイオガス発電事業や環境ベンチャーへの投資を新たに開始しました。 木質バイオマスボイラーによる CO2 排出量 62%削減に加え、再生可能エネルギー導入、省エネルギー推進、資源循環サービスの強化、バイオガス発電プラント建設など、多角的なアプローチで脱炭素化を推進し、循環型経済の構築と持続可能な社会の実現に貢献してまいります。
担当者名	グッドホールディングス株式会社 川村優香
リンク URL	https://www.goodhd.co.jp/csr/

企業名	株式会社クワタ
脱炭素経営方針	【自社のみならず顧客にも脱炭素活動を提案し、持続可能な社会に貢献】
目標	2030 年を目標年度に、CO2 排出量 64%削減（2019 年度比）
主なアクション	①社用車を EV、ハイブリット化 ②省エネ効果の高い設備の設置 ③太陽光パネルの設置
担当者からのメッセージ	この約 8 カ月脱炭素経営スクールに参加し、Scope1, 2 の策定を通じて脱炭素経営への理解を深めることができました。 建材の販売を通じ、省エネや環境負荷低減に貢献する当社にとって、理論だけでなく実践に活かせる具体的な知見を得られたことは大変有意義でした。 今後は学びを活かし、持続可能な社会の実現に向けた取組みを進めてまいります。貴重な機会をいただいた関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。
担当者名	川村、吉田
リンク URL	https://kuwata-glass.co.jp/service/sdgs%e3%81%ab%e9%96%a2%e3%81%99%e3%82%8b%e7%a4%be%e5%86%85%e3%81%a7%e3%81%ae%e5%8f%96%e3%82%8a%e7%b5%84%e3%81%bf/

企業名	株式会社コウエイ
脱炭素経営方針	木材運搬時のCO2削減計画 2025年度対前年比8%費用圧縮
目標	2025年度は対前年より8%燃料使用量を減らし、2030年には2024年度より15%削減を目指す。
主なアクション	<p>①運搬ルートの最適化 最新の地図情報や交通情報を活用し、最短距離や渋滞を避けたルートを選定し走行する。</p> <p>②車両燃費性能の向上 車両を新型車両に入替、燃費の向上を図ります。デタルタコグラフを活用し、運転手の運転状況を可視化し、安全運転や燃費向上を促進します。</p> <p>③車両の選定 現在8t車以上のトラックしか保有しておらず、積み荷とのミスマッチがあるので荷や量に応じてトラックのダウンサイジングしていく。</p>
担当者からのメッセージ	弊社は木を通じて地域の循環型社会に貢献する会社です。「ウッドロス0ゼロ」を掲げ、地域の木材資源を隈なく活用しています。地域資源を活用することで地方経済の活性化に貢献し、間伐材をはじめ通常では使われにくい資源を有効活用し林業の公益性を高めています。循環型社会を目指す中で、木材を回収する際に発生するCO2も削減する必要があると考え目標値を設定しました。ささやかな取組かもしれませんが、「まず一歩。」と思い、行動にうつしております。
担当者名	新規事業部長兼CSO 杉山 和磨
リンク URL	https://k-kouei.net/

企業名	株式会社神戸マツダ
脱炭素経営方針	<p><基本理念></p> <p>私共、神戸マツダは、「5つの幸せを通じたモビリティ社会の実現・発展のために」内発的動機により、自ら考え働く社員が集う誇れる職場にし、人々の人生を変えるクルマ、価値観を変える感動を提供、みんなに寄り添い付加価値を提供するモビリティカンパニー！として地域の皆様との融合を図り、自動車販売・自動車整備など全ての事業活動において、自然との調和を図りながら、「2050年カーボンニュートラル」に向けて環境経営を深化させ、「脱炭素」温室効果ガス排出量の半減を実現する。</p>
目標	当社では2013年度年間300万kg以上のCO2を排出しており、これを2030年度までに半減させるべく、電気使用量の削減、化石燃料使用量の削減を推進します。
主なアクション	<p>①エコアクション21認証・登録制度(7回目中間及び更新審査)継続</p> <p>②再生エネルギーPPAモデル導入店舗の推進</p> <p>③省エネルギー対策推進活動(高効率空調機、省エネタイプのコンプレッサー更新等)</p>
担当者からのメッセージ	私たち神戸マツダは、美しい地球と心豊かな人・社会の実現を使命と捉え、クルマの持つ価値により、人の心を元気にすることを追求し続けます。
担当者名	業務管理 Gr 総務チーム/藤本義人、コンプライアンス推進チーム/松本茂樹
リンク URL	https://www.mazda-hgr.co.jp/company

企業名	新明和工業株式会社
脱炭素経営方針	重点テーマ1：生産活動の温室効果ガス排出削減（Scope1・2） 重点テーマ2：環境負荷軽減「製品・サービス」の提供
目標	重点テーマ1：エネルギー使用に伴うCO ₂ 排出総量：2030年度のCO ₂ 排出総量38%削減 重点テーマ2：省エネ、低炭素製品の開発・販売および低炭素サービス、事業の提供
主なアクション	統合報告書 2024年版 49～53頁をご参照ください。
担当者からのメッセージ	事務所や工場など生産拠点の運営および原料や製品などの物流において、従来より自社の省エネに取り組んでおりましたが、脱炭素経営スクールにて異業種の方と共に学んだことにより、低炭素製品やサービスを提供できる自社製品ラインナップや協業先およびサプライチェーンを持っていることを強みとして、顧客などユーザー様が取組まれる脱炭素へ寄与できる可能性を改めて認識できました。
担当者名	新明和工業株式会社 本社 経営企画部 山田 新明和工業株式会社 航空機事業部 総務部 安全・環境課 新谷
リンク URL	<新明和工業 HP トップ> https://www.shinmaywa.co.jp/ <新明和工業 HP ESG 活動報告 環境> https://www.shinmaywa.co.jp/sustainability/esg/environment/ <新明和工業 HP 統合報告書> https://www.shinmaywa.co.jp/sustainability/managementpolicy/integrated_report.html <新明和工業 HP 製品・サービス 環境> https://www.shinmaywa.co.jp/products/scene.html

企業名	西部サービス株式会社
脱炭素経営方針	環境事業を取り扱う会社として、業界のトップランナーを目指して取り組む。
目標	2030年を目標年度に、CO ₂ 排出量「657t-CO ₂ 」削減（2021年度対比34%削減）
主なアクション	1.毎年1%削減：エコアクション21の環境経営目標（デマンド計測、機械トラブル削減、AI配車による効率化など） 2.設備・車両の更新：設備更新時にできるだけ高効率で省エネタイプのものを選定。 3.B5の導入：現在テスト使用中。将来的にコストが下がってくれば本格導入を検討。 4.PPAモデルの検討：工場屋根上の余剰スペース 5.再エネ比率の高い電力の導入及び非化石証。
担当者からのメッセージ	当社は企業から排出される産業廃棄物を回収し、その中に含まれるプラスチックや紙類などの可燃物を取り出し、石炭の代替燃料となるRPF/フラフというリサイクル燃料を製造しています。E A 2 1を主体とした環境経営とGHG排出量のScope1～3までの算定及び自社商品であるリサイクル燃料のカーボンフットプリントの自主算定も行い、これらの取り組みと再資源化事業を通して、自社のGHG排出量だけでなく、社会のGHG排出量削減に貢献できる企業を目指しています。
担当者名	日吉 弘幸
リンク URL	https://www.seibu-recycle.co.jp/index.html

企業名	株式会社坪田測器
脱炭素経営方針	経営改善やサプライチェーンからの要請に対応するべく CO2 排出量の見える化による削減を進め、更には将来の気候変動リスクに備える。
目標	030 年を目標年度に、2019 年度比で GHG 排出量 20%減
主なアクション	①社内業務 DX 化が脱炭素化への入り口と捉え作業のスリム化並びに設備更新も視野に運用の効率化を計る。 ②2019 年から 2024 年の間に営業車 2 台ガソリン車から HV 車へ、更にその 2 台の内 1 台を EV 車に置換え。 ③電気・燃料のチェック継続により計画的省エネを進め ”省エネ - 燃料転換 - 将来的に再エネ” の取り組みへと繋げて行きたい。現状、2030 年度時点で再エネ 10% 達成を目標としている。(2019 年度比で GHG 排出量 20%→28%減)
担当者からのメッセージ	従来よりエネルギー種別毎の使用量の収集に努めてきたがこの脱炭素経営セミナーの演習にて自社データーを纏め推移を見える化した事によりこれまでの弊社における主な取り組みが少なからず功を奏している事がわかった。 今後も継続可能な体制を維持整備し、そのデーターを目的毎に活用出来るようアップデートして行きたいと考えます。
担当者名	坪田浩明・湯浅寿江・笠波幸男
リンク URL	http://www.tsubota-sokki.com/

企業名	白鶴酒造株式会社
脱炭素経営方針	環境に配慮した製品づくりを目指し、2050 年にはカーボンニュートラルを目指す
目標	2030 年度を目標年度に CO2 排出量「5,587t-CO2」削減（2013 年度比 46%削減）
主なアクション	①環境にやさしい製品づくり➡製品関係の軽量化、3R(リデュース、リユース、リサイクル)を意識した製品設計 ②太陽光パネル設置 ③冷温同時取出しヒートポンプ、氷蓄熱システム導入など
担当者からのメッセージ	ひょうご脱炭素脱炭素スクールで、様々な企業様の取り組みなどを勉強させていただきました。今後、取組みを行っていく上で、良い経験になったと思います。
担当者名	白鶴酒造株式会社 生産本部 平山
リンク URL	

企業名	株式会社みのる製作所
脱炭素経営方針	中小企業版 SBT の取得・事業規模拡大と脱炭素経営の両立 ～グリーンエネルギーの発展に対応できる企業づくりを目指して～
目標	CO2 排出量「55.27t-CO2」削減（2021 年度比 42%削減）・中小企業版 S B T の取得
主なアクション	1. 省エネ診断の受診内容を基に、社内の省エネ化を促進 2. 電力プランの見直しによる再エネ化への段階的な移行 3. 工業団地内という立地を生かし、他企業と協働で再エネ化に取り組む
担当者からのメッセージ	弊社は今回の参加企業の中ではかなり小規模な事業者（従業員数 16 名）にはなりますが、大手企業との取引拡大を進めていく中で、脱炭素化への要求というのは企業の大小を問わず高まっております。また、こういった取り組みの P R が上手くいけば、業界全体のイメージアップにもつながると考えております。「仕事のフィールド拡大」と「求職者などへの業界イメージアップ」という 2 点において、弊社にとって大きな足掛かりとなりました。
担当者名	中山
リンク URL	https://www.minoruss-co.jp/

企業名	株式会社山本電機製作所
脱炭素経営方針	事業活動上の環境負荷低減 環境保全に役立つ製品開発
目標	2030 年を目標年度に CO2 排出量を 42%削減（2022 年度比）
主なアクション	①照明の LED 化 ②空調の集中管理 ③生産設備の高効率化
担当者からのメッセージ	中小企業版 SBT 認定を通し、Scope1, 2 の CO ₂ 排出量を算定・分析し、削減プランを策定しました。 今後は Scope3 の算定を目標として、製品ごとの CO ₂ 排出量把握に取り組めます。 また、当社はセンサメーカーとして技術力による社会貢献を目指しており、カーボンニュートラルに関しても、大学や大企業と連携し、特に水素エネルギー普及に向けた製品開発に注力しています。
担当者名	設計開発本部設計管理課 植田 総務部 立花
リンク URL	https://www.manostar.co.jp/

- ・ CIMS ジャパン株式会社
- ・ 株式会社ゼロプラス
- ・ 日本海工株式会社